

## 第 32 回オリンピック競技大会（2020/東京）

### トライアスロン競技日本代表選手・選考基準設定の概況と目的

公益社団法人 日本トライアスロン連合（以下、「JTU」）は、JTU 定款第 4 条（事業）第 1 項 3 号により、第 32 回オリンピック競技大会（2020/東京）（以下、「東京 2020 大会」）トライアスロン競技の日本代表選手・選考基準（以下、「本基準」）を策定する。

本基準は、ワールドトライアスロン（国際トライアスロン連合）の定める出場資格システムに基づき、東京 2020 大会・トライアスロン競技男子個人種目、女子個人種目及びミックスリレー種目でもっとも活躍が期待できる選手の選考を行い、最高の成果をあげることを目的とする。

開催国である日本は、ワールドトライアスロンの定める出場資格を満たしていることを前提に男女各 2 名（計 4 名）及びミックスリレー（1 チーム）の出場枠を有している。そのため、JTU は国別出場の最大男女各 3 枠獲得（合計 6 名）を目指しながら、代表選手を選出することとする。

東京 2020 大会での目標は、いずれもメダル獲得を目指すものとする。ただし、現在までの国際競技力の情勢から次の優先順で目標を設定し、ベストパフォーマンスを達成する。

- ・ 個人種目に出場する選手で構成するミックスリレー（男女各 2 名）は、2018 年 12 月 26 日時点、ワールドトライアスロンミックスリレーオリンピック出場資格ランキングで 7 位であり、出場予想が 15 チーム前後であることから、3 位以内（メダル獲得）の実現に向かい、8 位以内を確保する。
- ・ 女子個人種目は、現在ワールドトライアスロン個人オリンピック出場資格ランキング 30 位以内が 2 名であることから、目標を 3 位以内とし、レース展開により 8 位以内確保を目指す。
- ・ 男子個人種目は、現在ワールドトライアスロン個人オリンピック出場資格ランキング 30 位以内が 0 名、140 位以内が 3 名であることから目標を 8 位以内とし、レース展開により 12 位以内確保を目指す。

（2018 年 12 月 26 日策定）

## 第 32 回オリンピック競技大会（2020/東京）

### トライアスロン競技日本代表選手・選考基準

#### 【 1 】 選考・競技の実施概要

1) 選考基準適用の対象期間	2019 年 5 月 11 日（土）～2021 年 6 月 14 日（月）予定
2) オリンピック競技会場 （スタート・フィニッシュ）	東京都港区 お台場海浜公園（全種目共通）
3) 開催日・競技種目 （オリンピックトライアスロン競技）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年 7 月 26 日（月）男子・個人決勝</li> <li>・2021 年 7 月 27 日（火）女子・個人決勝</li> <li>・2021 年 7 月 31 日（土）ミックスリレー・決勝（男女各 2 名）</li> </ul>

## [ 2 ] 出場枠と出場資格

1) 出場枠（個人種目・ミックスリレー）	男女各 3 名迄（開催国に男女各 2 枠が自動的に与えられる）
2) 出場資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国籍を有し、公益財団法人日本オリンピック委員会（以下、「JOC」）の派遣基準を満たしていること。</li> <li>・ワールドトライアスロン個人オリンピック出場資格ランキング（2021年6月14日時点）が 140 位以内であること。</li> </ul>

## [ 3 ] 選考対象大会と評価（男女共通）

### 1) 選考対象大会

① オリンピック・クオリフィケーションイベント（2019年8月/東京）（以下、「東京 OQE」） *スタンダードディスタンス（以下、「STD」）
② 世界トライアスロンシリーズ（以下、「WTS」）（1大会） 2019年7月：ハンブルグ WTS（ドイツ） *スプリントディスタンス（以下、「SP」）
③ ワールドトライアスロンチャンピオンシップシリーズ（以下、「WTCS」）（1大会） 2021年5月：横浜 WTCS（日本・横浜） *STD

#### \* 選考対象大会の評価条件

本基準で適用する出場選手から大会のレベルを算出するクオリティオブフィールド係数基準（以下、「QF 係数」）及び大会の定員に対する出場率（80%を基本とする \* 予選・決勝形式の場合は決勝進出人数）により、大会の高低を評価する。

\* 特例 1：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、出場選手からの大会のレベルを評価するために、前述 1) ②の横浜 WTCS（2021年5月）において QF 係数基準で指定のポイント※1）を下回る場合は、選考対象大会としての評価は行わない。※1）女子は 79.9pt（19 ハンブルクと同ポイント）、男子は 65.5pt（東京 OQE と同ポイント）と過去の選考大会実績から算出。

\* 特例 2：前述 1) ②の横浜 WTCS において、特例 1 で示した基準が満たない場合、または、開催中止等（詳細 [ 3 ] 参照）があった場合はリーズ WTCS（2021年6月） \*STD を選考対象大会とする。

\* 特例 3：横浜 WTCS（2021年5月）及び代替候補のリーズ WTCS（2021年6月）の両大会が開催中止等や特例 1 で示した基準が満たない場合は、選考対象大会の代替は行わず、東京 OQE（2019年8月）とハンブルク（2019年7月）の 2 大会を選考対象大会とする。

#### <変更に関する補足説明>

・本選考の理念として、選考対象大会の 3 大会はレベルの高いレースでの選考を掲げており、新型コロナウイルス影響で出場選手レベルの大幅な低下が派生する可能性も考慮し、追加大会の大会レベルを QF 係数で定量評価を行う。設定のラインは、すでに終了した選考 2 大会と同水準のレベル保ちつつも、選考大会として可能な限り機会を設定するために、過去 2 大会の QF 係数基準から男女それぞれ低い大会のポイントを採用した。

\* QF 係数基準実績：2019 ハンブルク（女子 79.9pt、男子 97.8pt）2019 東京 OQE（女子 91.9pt、男子 65.5pt）

## 2) 選考方法と評価

### ①第1優先候補

東京 OQE 1位～3位の最上位1名を選出する。

### ②第2優先候補

次のいずれかを満たす者から、QF係数を適用した順位の順に出場枠に達するまで選出する。

- a) 東京 OQE 6位以内（前述の①を除く）
- b) ハンブルグ WTS 1位～6位
- c) 2021 横浜 WTCS 1位～6位

### ③第3優先候補

次のいずれかを満たす者から、QF係数を適用した順位の順に出場枠に達するまで選出する。

- a) 東京 OQE 7位～9位
- b) ハンブルグ WTS 7位～9位
- c) 2021 横浜 WTCS 7位～9位

### ④第4優先候補

次のいずれかを満たす者から、後述の「評価項目」の順に判断して、出場枠に達するまで選出する。

- a) 東京 OQE 10位～12位
- b) ハンブルグ WTS 10位～12位
- c) 2021 横浜 WTCS 10位～12位

### ⑤第5優先候補

次のいずれかを満たす者から、後述の「評価項目」の順に判断して、出場枠に達するまで選出する。

- a) 東京 OQE 13位～16位
- b) ハンブルグ WTS 13位～16位
- c) 2021 横浜 WTCS 13位～16位

#### <変更に関する補足説明>

各優先候補の位置付け

第1優先候補：個人種目でメダルを狙える選手を選考する。

第2～第5優先候補：個人種目でメダル・入賞を視野にリレー種目も戦える選手を選考する。

第6優先候補：リレー種目で最良のパフォーマンスの発揮が期待できる選手を選考する。

---

**<評価項目>**

---

- 第1 評価基準： スタンダードディスタンス（以下、「STD」）ではスイムの第1 集団、又はスイムトップから 20 秒以内でスイムフィニッシュしていることを指標とする。スプリントディスタンス（以下、「SP」）ではスイムの第1 集団、又はスイムトップから 15 秒以内でスイムフィニッシュしていることを指標とする。
- 
- 第2 評価基準： STD ではバイクの第1 集団、又はバイクフィニッシュトップから 30 秒以内でフィニッシュしていることを指標とする。SP ではバイクの第1 集団、又はバイクフィニッシュトップから 20 秒以内でフィニッシュしていることを指標とする。
- 
- 第3 評価基準： 総合トップタイムから 2.5%以内でフィニッシュしていることを指標とする。
- 
- 第4 評価基準： ラントップタイムから 2.5%以内のタイムを指標とする。
- 
- 第5 評価基準： 評価項目に当てはまらないときは、QF 係数を適用した順位の上位を選出する。
-

## ⑥第6優先候補

前述①から⑤で選出に至らないときは、次の a) b) c) d) e) f) g) h) 大会（優先順なし）から、「個人種目の順位」、「リレー評価項目」、前述の「評価項目（第5評価基準は除く）」を総合的に判断して、出場枠に達するまで選出する。

### <男女共通対象大会>

- a) ITU 世界トライアスロンミックスリレーシリーズ（以下、「MRS」）（出場選手）
- ・2019年6月：ノッティンガム MRS（イギリス）
  - ・2019年7月：ハンブルグ ITU 世界トライアスロンミックスリレー選手権（ドイツ）
  - ・2019年7月：エドモントン MRS（カナダ）
  - ・2019年8月：東京 MRS（日本）

### <女子対象大会>

- b) WTS（16位以内）
- ・2019年5月：横浜 WTS\*STD（日本）
  - ・2019年6月：リーズ WTS\*STD（イギリス）
  - ・2019年6月：モントリオール WTS\*SP（カナダ）
  - ・2019年7月：エドモントン WTS\*SP（カナダ）
  - ・2019年9月：ローザンヌ WTS グランドファイナル\*STD（スイス）
- c) 前述1)の選考対象大会3大会（20位以内）
- ・2019年8月：東京 OQE
  - ・2019年7月：ハンブルグ WTS
  - ・2021年5月：横浜 WTCS\*STD（日本）

### <補足説明>

横浜 WTCS が QF 係数基準を満たし、第1優先～第5優先の選考対象大会となった場合のケース。リーズ WTCS が選考対象大会となった場合は入れ替える。

### h) 2021WTCS（QF係数順位16位以内）

- ・2021年6月：リーズ WTCS\*STD（イギリス）
- ・2021年5月：横浜 WTCS\*STD（日本）
- \*横浜 WTCS は QF 係数基準において選考対象大会と認められなかった場合に対象大会とする。

### <補足説明>

横浜 WTCS が QF 係数基準を満たさずに、第1優先～第5優先の選考対象大会とならなかった場合のケース。

<男子対象大会>

d) ASTC アジアトライアスロンミックスリレー選手権（出場選手）

- ・2019年6月：アジアトライアスロンミックスリレー選手権（韓国・慶州）
- \* ASTC：アジアトライアスロン同盟

e) ITU トライアスロンワールドカップ（以下、「W杯」）（9位以内）

- ・2019年5月：成都・チエンドウ W杯（中国） \* 予選 SP/決勝 SSP
- ・2019年6月：ウアトルコ W杯（メキシコ） \* SP
- ・2019年7月：ティサウイパローシュ W杯（ハンガリー） \* 予選 SP/決勝 SP
- ・2019年9月：バニョレス W杯（スペイン） \* SP

f) JIU 男子ミックスリレー特別大会（以下、「2020 男子特別大会」）（5位以内）

- ・2020年2月：2020 男子特別大会（日本・宮崎） \* SSP

g) 2021年 大会

- ・2021年4月：アジアトライアスロン選手権（日本・廿日市） \* STD（1位以内）
- ・2021年5月：横浜 WTCS \* STD（日本）（16位以内）
  - ・特例1）OQR140位内の日本人選手が4名以上出場できることを条件とする。
  - ・特例2）横浜 WTCS が開催中止等の場合はリーズ WTCS を代替え大会として設定する。  
但し、横浜 WTCS と同条件とする。
- ・2021年5月（予定）：2020 男子特別大会（日本・宮崎） \* SSP（1位以内）

<変更に関する補足説明>

男子は SP・SSP を中心に第 6 優先の選考評価大会を設定したが、当初予定していた評価対象大会の中止に伴い、STD の廿日市アジア選手権、横浜 WTCS を評価対象大会として追加。大会の結果の評価はリレー種目で最良のパフォーマンスの発揮が期待できる選手を選考するために、STD(スタンダード)よりも SP(スプリント)及び SSP (スーパースプリント) を重視する。

### <リレー評価項目>

- ・STD(スタンダード)よりも SP(スプリント)及び SSP (スーパースプリント) を重視。
  - ・ウェットスーツ着用禁止でのスイムを重視。
  - ・ミックスリレーに適応できる競技力（以下、各走者に特筆して求められる能力は次のとおりとする）。
- \* 凡例：◎最重要、○重要、△必要

	第1集団 維持力	ギャップを埋め るスイム力	スピード変化 の対応力	独走力	トランジション 能力	安定力	フィニッシュ スプリント力
第1走	◎	—	—	△	◎	◎	○
第2走	◎	◎	○	○	◎	○	○
第3走	△	○	◎	◎	◎	○	○
第4走	△	○	◎	◎	◎	◎	◎

### 3) 対象大会で次のことが発生した場合は、状況を分析し別に審議する。

- 大会が、開催前、開催期間中、競技中に中止されたとき。（競技の中止）
- ワールドトライアスロン基準によるトライアスロンのスイム、バイク、ランのいずれかの距離が短縮されたとき。（距離フォーマットの変更）
- 大会がデュアスロン又はアクアスロンになったとき。（競技フォーマットの変更）
- レース中の予期せぬ事故や上位選手の失格などで順位の変動があったとき。（順位の変動）
- その他、競技結果を左右する特別な状況（荒天や出場選手レベルの大幅な低下など）があるとき。（特別な状況）

#### <解釈に関する補足説明>

d) 順位の変動：外的要因による順位変動を想定。レース中での選手間接触でのバイク落車や、怪我などは本考慮の対象外となる。過去事例として、バイクコースの仮設路面の整備不備による落車、コースへの侵入者との接触、上位集団のランコース間違いなどによる順位の変動などを想定している。

## [ 4 ] 選考に係る手順

- 1) オリンピック対策チームは、2021年6月14日予定に決定する国別代表枠決定の後、この選考基準に定めるすべての対象記録を評価し、2020 東京オリンピック競技大会・トライアスロン競技代表選手選考委員会（以下、「東京 2020 選考委員会（仮称）」）に推薦選手（入替候補選手含む）を提出する。
- 2) 東京 2020 選考委員会は、推薦選手を審査（2021年6月中旬を予定）する。
- 3) JTU 理事会（2021年6月下旬を予定）の承認を得て、JOC に提出する。
- 4) JOC は、派遣手続（ドーピング検査、メディカルチェック等）を経て、日本代表選手としての適性等を判断し、最終承認を行う。

## [ 5 ] 留意事項

- 1) 本基準は、大会開催の状況、関連基準の変更・関係各団体との調整などにより、変更されることがある。ただし、その場合は速やかに公示するものとする。
- 2) 選考対象大会は、情報戦略医科学委員会等を中心に記録・分析を行い、東京 2020 大会選考委員会及び理事会に報告する。
- 3) 入れ替え候補選手（補欠選手）は、男女各 1 名を本基準に従って選出する。
- 4) ミックスリレー出場選手は代表選手の中から、東京 2020 大会のリレー競技説明会までにオリンピック対策チームで審議の上、決定し理事会が承認する。
- 5) JTU は、指定のメディカルチェックを要請することがある。

\* 東京 2020 大会 トライアスロン競技概要

<https://tokyo2020.org/jp/games/sport/olympic/triathlon/>

\* ITU オリンピック出場資格システム

[https://www.triathlon.org/uploads/docs/FINAL\\_-\\_2018-03-19\\_-\\_Tokyo\\_2020\\_-\\_Qualification\\_System\\_-\\_Triathlon\\_-\\_eng....pdf](https://www.triathlon.org/uploads/docs/FINAL_-_2018-03-19_-_Tokyo_2020_-_Qualification_System_-_Triathlon_-_eng....pdf)

\* ITU 個人オリンピック出場資格ランキング基準

[https://www.triathlon.org/uploads/docs/itusport\\_2018-individual-oq-ranking\\_20171210.pdf](https://www.triathlon.org/uploads/docs/itusport_2018-individual-oq-ranking_20171210.pdf)

\* ITU ミックスリレーオリンピック出場資格ランキング基準

[https://www.triathlon.org/uploads/docs/itusport\\_2018-mixed-relay-oq-ranking\\_20171210.pdf](https://www.triathlon.org/uploads/docs/itusport_2018-mixed-relay-oq-ranking_20171210.pdf)